

令和6年度第1回豊岡市部活動の在り方検討委員会 議事録

令和6年7月24日（水） 豊岡市役所 5-1・5-2会議室

1 開会（15時30分）

2 委嘱状交付

ただいまより、令和6年度の第1回豊岡市部活動の在り方検討委員会を始めます。本委員会は、設置要領に基づき運営してまいります。委員の皆さんには、本来でありましたらお1人お1人に委嘱状を教育長からお渡しするのが本来ですけれども、時間の都合上、机上に配布させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

では、教育長よりご挨拶申し上げます。

3 挨拶（嶋教育長）

皆さん、こんにちは。お集まりいただきましてありがとうございます。いつ検討会をするのか分からない状況でしたが、少しでも変化があれば皆さんに情報提供したいということで本日お集まりいただきました。メンバーも変わっておりますので、この後どんなことをするかなどは担当からありますけれども、部活動指導員がかなり集まりました。しかし、学校によっては、課題があると思いますので、今どういう状況なのかの情報を提供し、皆さんからそれぞれがどんな感想をお持ちなのか聞かせていただきたいと思います。それから、委員の皆さんは、それぞれのお立場でどんなことに関われるのか、ということも合わせて考えていただきたいと思います。

部活動について、県教育委員会の幹部と但馬の市町の教育長との会合が来週あります。本日出した意見は全てその会合に持っていこうと思いますので、有形無形、可能性の有無に関わらず、こんなことが望まれるなということがあったら出していただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

4 委員・事務局紹介

本委員会には、スポーツ、文化芸術団体、中学校、PTAから10名の皆さんに委員としてご参加いただいております。次第の裏面にあります委員名簿に従いまして、自己紹介をお願いいたします。

5 役員選出

設置要領の第5条により、委員長は、委員の互選によるとありますが、いかがでしょうか。特にご意見がなければ、事務局にお任せいただいてもよろしいですか。（異議なし）

委員長は、昨年に引き続きですけれども、豊岡市スポーツ協会の西田様をお願いしたいと思います。また、第5条の3にあります委員長の職務代理を行う委員には、吹奏楽連盟の土井様をお願いしたいと思います。（同意）

(事務局) 西田委員長、ご挨拶をいただき、この後の進行をお願いします。

(西田委員長) 豊岡市スポーツ協会理事長の西田清と申します。昨年に引き続き、部活動の在り方検討委員会の委員長を務めさせていただきます。

中学校の部活動については、大きな変革の時期を迎えるというように思っています。この委員会にはいろんな立場の方に出席をいただいております。ぜひ、それぞれの立場で経験したことなど、皆様から多くの意見を頂戴することをお願いしまして、就任の挨拶にさせていただきます。今日はよろしくお願いいたします。

6 報告事項（国の動向と昨年度の協議について）

(事務局) 本年度から新しく委員になっていただいた方もいらっしゃるので、学校部活動に関する国の動きと昨年度の本委員会での協議について報告します。中学校の部活動は、同じスポーツ・文化芸術に興味を持つ生徒が集い、教職員が務める部活動顧問の指導の下で、教育課程外、つまり授業ではないものの、学校教育の一環として行われてきました。

しかし、生徒数の減少による部員不足、教職員への大きな負担などにより、これまでと同じような運営で続けていくことが難しくなってきました。そこで、将来にわたって持続可能な活動環境を整えるため、国は部活動を学校から地域での取組にすべく、段階的に地域移行を図ることとしました。

その方向性として、(1) まず休日における地域連携・地域移行を進めることとし、昨年度から来年度までを「改革推進期間」として進める。(2) 平日の地域連携・地域移行はできるところから取り組む、といったことを示しています。国が示している学校部活動の地域移行、地域連携のイメージです。上のオレンジ部分が「地域移行」と呼ばれているもので、地域に現在あるスポーツや文化の団体、地域に新たに立ち上げたスポーツや文化の団体に生徒が参加するというものです。

下の緑部分が「地域連携」と呼ばれるもので、中学校ごと、もしくは複数の中学校での合同部活動に、地域の方を部活動指導員として派遣し指導をしてもらうものです。もう少し、くわしく説明します。

先ほどの下の緑が地域連携、上のオレンジが地域移行です。ちなみにこの後申しますが、いま豊岡市が取り組んでいるのは、左の「地域連携」です。地域連携は、学校部活動です。地域移行となると学校外での活動になります。従って指導者は、地域連携では教員や部活動指導員、地域移行では地域の方になります。教員が指導する場合、地域連携ではもちろん教員として、休日は4号業務で行います。地域移行では、兼職兼業申請をしたうえで、地域の指導者として指導します。活動場所や参加費が必要なことは変わりませんが、活動場所が遠くなる可能性が高く、参加費は高くなる可能性も考えられます。けがをした際などの保険は、地域連携では学校管理下なのでスポーツ振興センターで、地域移行の場合は

新たな保険に加入する必要があります。大会への出場等も変わってくるかなと思います。

これらを踏まえて、昨年度4回の委員会で協議をしていただき、豊岡市ではまず、「休日における学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行は、地域連携から始める。」「人材バンクを立ち上げ、部活動指導員を公募していく。」ということになりました。

これが、人材バンクのイメージです。スポーツや文化・芸術活動に携わっている方、堪能な方、指導に興味がある方に人材バンク登録をしていただき、それらの方々を中学校に紹介し、部活動指導員として指導していただく仕組みです。

報告は以上です。

(西田委員長) ただ、今の説明につきまして、何か委員の皆さんの方から質問等ありましたらお願いいたします。

(西田委員長) 国から出た方針やスケジュールについて説明をお願いします。

(事務) 国は当初、いきなり地域移行を示してきて、3年ぐらいでやりなさいと言ってきたのですが、地方自治体からの反発が大きく無理だろうというのがあって、新たな形を出してきたのが地域連携です。地域連携からやってもいいよと。国は、初めは令和5～7年を「改革集中期間」としていたのですけれども、トーンが下がって「改革推進期間」と言うようになりました。

(西田委員長) スポーツ庁と文化庁が連名でガイドラインを出しました。学校部活動及び新たな地域クラブ活動のあり方等に関する総合的なガイドラインというのを令和4年12月に出して、今説明されたように生徒の数が減少したことや競技経験のない先生が顧問をしなくてはならないというようなことで、顧問の先生だけではなく地域の協力を得てというような方針が出されました。豊岡市としては、いきなり地域に移行するのが大変だからということで、去年の委員会で、地域連携ということで、顧問の先生と地域の部活動指導員とが学校の中で部活動を進めていこうというような考えでまとまりました。

(9番 安田委員) 近隣の町で進んでいるようなところがありますか？

(事務局) 今、兵庫県の中で一番進んでいるのは、おそらく播磨町だと思います。町がとてもコンパクトで、中学校数も3校くらいで、実施しやすい条件が整っている町であったと思います。また先日、神戸市は、2026年に学校部活動はやめて、すべて地域での活動にしようという方針を発表していました。但馬ではそれほど進んでいる市町はありません。

7 協議事項（今年度の取組状況について）

（事務局）先ほど報告しましたように、「休日における学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行は、地域連携から始める。」「人材バンクを立ち上げ、部活動指導員を公募していく。」を昨年度の委員会でご協議いただいて、これに向かって今年度動いています。

まず参考に、これが今の豊岡市立の9中学校にある部活動です。運動部で言えば10種目で61部がありますし、文化で言ったら9種類に20部があります。次に人材バンクの登録者の内訳です。運動部が現在6種目にそれぞれ1名から3名ずつ登録をいただいています。文化は合唱、吹奏楽、美術に7名の方に登録をいただいています。登録に至った経緯として、一番多いのは、校長先生から紹介を受けて登録していただいた方です。また委員の皆さんからクラブ・団体へのお声がけで、市教委に問い合わせをいただいた方、ホームページとか広報を見て登録していただいた方もいます。

登録者のうち、現在、中学校に部活動指導員として行っている方がシート12になります。今年度の取組として、シートの10～12あたりを見ていただいて、ご意見をいただけたらと思います。

（西田委員長）今日の資料の2ページに部活動の目的の中に、将来に渡って継続してスポーツや文化芸術に親しむというようなことが書いてあります。委員の皆さんの中にも長いことスポーツや文化に親しんで来られた方も多いのではないかと思います。中学校の部活動の思い出とか、こんな指導がよかったとか、そんな話をしていただけないでしょうか。

加藤委員、いかがでしょう。

（4番 加藤委員）私は、南中学校出身で、当時、美術部はなかったです。高校に入って美術部に入って、美術の教師になったということで。部活動が職業になってしまいました。

（西田委員長）顧問の先生はどんな感じでしたか？

（4番 加藤委員）顧問の先生はずっと絵を描いていた方で、優しい方でしたね。

（西田委員長）ありがとうございます。丹賀さんはいかがですか？

（2番 丹賀委員）私は野球をやっていました。少し質問と違うと思うのですが、去年、前回まで、この事業について検討をされてきたのだと思うのですが、私は今回初めて出席をしたので、今何がどういうなっていて、何をこれからやっていくかっていうのがありますよね。現状はどうなっているのですか。指導員さんが何名かいらっしゃる。じゃあ、中

学校の方も活動としてこんな部活がある。さっき説明があったグリーン（地域連携）のところが目標ですよ。ここに向かっていくために今現在何が足りないのですか。

（事務局）最終的には国はこのオレンジ（地域移行）をやってくれと言っているのです、国が今のまま考え方を変えなければ、これに持っていかななくてははいけません。でもいきなり地域移行に持っていけないので、地域連携をしていく。地域に学校部活動を理解していただく方を増やしていきたい、将来的に地域移行になった時に指導していただける方、子どもたちの受け皿になっていただける団体を少しでも増やしていきたいという思いです。いま足りないのは指導にあたっていただける地域の方です。

（２番 丹賀委員）指導員を増やすためにはどうするかということを考えていったらいいのですよね。

（事務局）そうですね。それもありますし、地域に受け皿となる組織を今後増やしていくために、作っていくためにどうしていこうかという課題もあります。

（２番 丹賀委員）私はスポーツクラブの代表として参加させてもらっているのですが、各地域に小学校単位でスポーツクラブがあります。そういうところも使ったの周知活動、地元の方にはこうしてほしい、皆さんにお願いしますということができると思います。今現在どうなっているのかなと思いつながりながら考えていました。

（西田委員長）スポーツクラブ２１などが、受け皿として可能なかどうかというあたりはどうですか。

（事務局）去年のここでの会議は、受け皿となる団体はあるけど、中学校生が行った時に指導していただけるかとなると、メンバーの高齢化であったり人数の減少であったり、自分が楽しむためにやっているの、指導となると難しいという意見が多かったです。

（２番 丹賀委員）それだと、ずっと何も先に進んでいかないですよ。今、一番ネックになって先に進まないのが、指導員の問題なのですね。地域の人に周知するための手段はあると思うのですが、その指導員をお願いするのが、陸上であったり、卓球であったり、バレーボールであったりということなのですね。

（事務局）そうですね。本来であつたら、今ある部活動でいろいろなスポーツや文化・芸術の方がたくさん集まれば嬉しいのですが。

(2番 丹賀委員) 例えばそれを指導するのに、平日は仕事でやりたいけどできないという人もいそうですね。

(事務局) はい。だから、国もまずは休日からと言っています。やはり今まで指導したことがないのにいきなり中学生を指導するなんてことはできないだろうという意見はたくさんあったので、まずは顧問の先生と一緒にやっていただいて、子どもを教える経験をより多くの方に積んでいただくという段階です。

(西田委員長) 中田さん、部活動とか今の状況とかでご意見がありましたらお願いします。

(3番 中田委員) 私たちが中学生だったの頃に比べたら、子どもの数が減っているの、部活動の数も圧倒的に減っているし、今の子どもたちは選択肢が少なくなっているのだろうなということと、人材バンクのことですね。人は増えていますよね？

(事務局) そうですね。去年からは増えています。去年は人材バンクではなくて、直接中学校に部活動指導員として入っていただいていたのですが、そのときと比べると数はかなり増えています。

(3番 中田委員) 私も増えたなと思いながら見ていました。ただ、その国が進めたいスピードにはなっていないくて、人材バンクに登録して、実際に中学校に行って指導してもらう人をまだ育てていかなければいけないというところですよ。研修とかもあった方がいいのかもしれないし、大変だろうなという感想を持っています。

(西田委員長) 吹奏楽の関係で、土井さん、何かご意見がありましたらお願いします。

(5番 土井委員) 吹奏楽連盟が7月にコンクールをするのですけれども、そのコンクールから地域の団体であっても中学生だけで集まった団体があるのだったら出てもいいですよ、中学校単位でなくても出てきてもいいですよとなって、但馬でも養父のYBジュニアプラスという団体が出てきます。少しずつそういう動きがあるなと思っていますし、連盟、運営する団体もそれを受け入れていくように働きかけているという流れがあります。

(西田委員長) ありがとうございます。人材バンクに吹奏楽で4名の方が登録していただいているのですけれども、中井さんいかがでしょうか。

(6番 中井委員) 人材バンクに登録させていただきまして、日高西中で指導をさせていただいています。週に2回、もしくは3回指導させてもらっているのですけれども、1時

間半から2時間で子どもたちと交流して、先生と連携をして、果たして効果的な指導までができているのだろうかというのが現状ですね。部活動に関わる地域の人間を増やすということでは、一助にはなっているとは思いますが、果たしてそこで触れ合っている子どもたちのプラスになることができているのかということ時間が圧倒的に足りないというふうな思いが正直なところですよ。地域の人間が、顧問の先生と生徒さんたちの信頼の輪の中に入って行って、指導をするというのはすごいスキルを要求されます。この活動が、そのオレンジの方（地域移行）に行けるかどうか、ちょっと不連続な面があるなと感じています。

私が吹奏楽を始めたのは高校からで、中学校はバスケット部だったんです。私が中学校の頃には、顧問の先生の関わりがあまりなかったです。バスケットを専門として指導できる顧問の先生が学校にいらっしゃらなかったです。私が住んでいた竹野には、地域にバスケット愛好家がたくさんいらっしゃった。だから地域連携がすでにできていた感がありました。またその当時は、中学生だけで部活をすることが許されていた。今では考えられない、怪我をしたらどうするのとかはなくて、何かあったら職員室の先生のところに生徒が行く。引率も先生が連れて行ってくださるけれども、部活の部長、生徒が自由にできる部分がたくさんあった状態でした。でも、今コンプライアンス的なものを取り沙汰される時代になってきて、そういったことがなかなか難しくなっている。やっぱり先生が授業も含めた1日の長い時間で子どもを見ていただいて、その中で地域の人がお手伝いできる場所はお手伝いするようなことが子どものためにはいいのではないかなというふうに思いました。

（嶋教育長）今のことと関連して、そういう話になってしまうと部活の地域移行が全然進まないで、もう1回確認します。なぜ地域移行の話が出たかというと、2つです。1つは先生たちの働き方改革、もう1つは子どもの数が減少していったので、部活がやれない学校が出てきた。港中学校は3つしかないですよ。北中は10いくつあるのかな。そういうような差が出て不平等が生まれてきた。だから部活動を地域に移行していこうということなので、そのためには先生がずっと指導するのではなく、部活動指導員の方が指導できるようにならなくてはいけません。それができなければこの話は全く前に進みませんよね。

今何がやりたいかという質問がありましたけれど、部活指導員を1人でも2人でも増やしたい。まずこれです。ところが、募集を出したら、部活動の技術指導と大会・試合の引率、活動の計画の立案、こんなことできないよ、ちょっと自信ないなという話になってくる。だから、さっきおっしゃったように研修会もしていかなければいけない、私でも部活動指導員ができるよ、というクチコミをどんどん増やして行って裾野を広げていくしかないですよ。

それから状況が地区によって違います。ボートはちょっと特殊です。ボートの指導者は指導経験がなくてはできないし、溺れた時に助けなくちゃいけないから船舶免許があると

か。ここは地域移行をしたいという校長の願いもあるので、今3人も入っていただいているので、指導員をもうちょっと増やして、平日のその練習も協会の方をお願いをし、教員はちょっとお手伝いするような形にできればと思います。そして城崎中だけでなく他の中学校からもボート部に参加できるというような、いわゆる文科省が最も理想としているスタイルができるのではないかとということで学校の方からも聞いています。

部活動指導員が増えて、今入っていますけれども、松下さんや岩井さん、指導員が指導してくれてよかった点、ものすごく助かりましたということ、逆にちょっと困って問題がありますというようなことがあったら、教えてもらえないでしょうか。

(7番 松下委員) よかった点は、指導者の人数が増えるので、子どもに対する指導が手厚くなる。顧問1人でやっているとか、2人体制でやっているけど出張で不在とかあるので、指導員に来てもらえるのはすごくありがたいことです。また指導者同士がコミュニケーションを取ることで子どもの様子がよく分かる。子どもに対する理解が進んでいって、1つのチームができる、新たなチーム作りができるという面がいいですね。それから、課題だなと思うのは、指導していただける時間が少ないです。なかなか指導に来られない、また遠慮してしまう、どうしてもお手伝いみたいな感覚になられてしまうので、もっとぐいぐい指導してもらいたいという思いがあります。

(8番 岩井委員) 私の学校では学校現場をよく知っておられる方に来てもらっていて、生徒の生活指導から技術指導まで全てやってもらって、顧問は非常に助かったと思います。顧問が練習に参加できない時でも、練習中止や休憩ではなくて、しっかり活動ができるところが良かったです。だから、他の学校は分からないですけど、うちの学校でこれが課題だということを顧問から聞いたことはなく、メリットしか聞いていなくて、非常に羨ましいなと思っていました。

(西田委員長) 保護者の立場として思うこと、部活動への思いとか現状についていかがでしょうか。

(9番 安田委員) 内容について少し分かってきました。少子化、先生の負担。私の子どもも陸上をやっているので、土日に練習や試合に行きます。引率で先生たちがおられる。先生方は月曜日からまた授業をやるのだな、先生たちも自分の子どもがいるのにその子はどうしているのだろうなと思います。だから、これは絶対的にあってはならないのだろうなと思います。この改革の肝になるところなのだろうなというのは理解できました。

部活動指導員が少ない。どうやって集めるのか、そのHow toがすごく大事なのかな。どうやって人を探していけるのか、人が集まらない限りは地域連携になっていかないですから、人材がいらないのに地域連携しますなんて言えないわけであって、人材をどう確保し

ていくかが大きな課題ですし、そこの意見交換とかがもっとも必要なのかなと思っています。ただ、この部活動指導員では責任は結局全て学校になる可能性が高い。それでも学校は助かるということならばいいのかなとは思いますが、そこのニュアンスが非常に難しいなと思います。ただ、取組としては、指導員をいかに増やすかというのが一番の問題点なのだろうなとは思っているので、この組織だけではなくて、一般企業の方だとかで指導員がいるだとか、何か作戦がないのかなと思いました。

あと地域連携から地域移行にすることが最終的な目的であるならば、そのための作戦を大まかに描いていかないといけないのかなと思います。地域連携で切れてしまうのではないかなという思いがします。部活動指導員が地域クラブを作ってくれるところまで持っていければ正解だと思いますがそこまでは難しい。陸上の但馬アスリートクラブのようなものがモデルなのだろうと思います。あんな団体が出てくるということが非常に大切だと思います。じゃあ、そのアスリートクラブをどう作っていくのか。民間の事業者ですから、例えば、体育大学などを卒業した人の中で、指導したい人は豊岡で働きませんか、うちでバスケットボールを指導しないですかなど、職業の創出のようなことに市全体が繋げていけるといいのかな。クラブ運営をできる人を他から引っ張ってくるみたいなことが将来的にできたらいいのかな。そしたら人が帰ってくるということにもなりますし、人口も増える。そしてこのクラブ活動も活発になる。そんな流れができたらいいのかなと思いました。地域連携から地域移行への流れが、ちょっと弱いかなという思いがしました。

(10番 徳山委員) 右側の部分(地域クラブの民間事業者)は、多分福知山でされていると思うので、参考にさせていただけたらと思います。昔は小学校の少年野球は、学校がされていたと思うのですが、今は学校から離れて、外部指導者が平日から週末まで指導をされています。平日は仕事をされていない年配の方に教えていただいて、週末は仕事をしている方々が指導に来ていただいて運営をしています。出石の地域は子どもがどんどん減って、野球チームがなくなってきている状況です。福住小学校と弘道小学校の野球のチームを1回解散して、1つのチームを作りました。そのチームを作った時にこの話がまたま出ていて、小中高がプレーするクラブチーム化みたいなことをしたら、こういうところに向かっていけるのかなという話が出ました。要項などは全然分からなかったのですが、そのまま流れてしまったのですが。小学校の野球チームやバレーチームがやっていることを参考にされるのもいいのかなと思います。

(西田委員長) 1つの課題として、人材バンクへの登録者が少ないというようなことがあったのですが、こんなことをしたらどうかという意見がありましたらお願いします。

(7番 松下委員) 中学校の現場の者が、こんなこと言うのはよくないのかもしれませんが、部活をしたい、部活が命みたいな先生もいます。私も含め部活動で成長させてもらっ

たという思いを強く持っている人がいる。部活動が完全に地域移行になっても、やはり部活動を指導したいという職員がいると思います。そういう職員が地域の方と連携して部活動を指導する、部活動指導員としての数に数えてもいいのかなと思いました。ちょっと今の学校現場で難しいですが。うちの学校の勤務時間は4時半までです。4時半まで働いたら、あとは学校から離れて部活動指導できると。放課後には学年や生徒指導の会議などがいっぱいあって、今はなかなか難しいかもしれませんが。他の会社などでもそのような人はおられると思うのでそういう方々も含めて、将来的に人材を増やすというようなことができるのかなと思っています。

（西田委員長）今の話は、地域移行になれば、先生方も届けを出して関わることができそうですよね？

（事務局）そうですね。ただ地域連携の間は、学校部活動なので、部活動指導員ではなく今まで通り教員として指導にあたっていただくことになります。

（西田委員長）中学校の部活動ではなく、地域でやっているクラブでは、どんなものがありますか。

（事務局）陸上、野球、サッカー、バレーボールなどがありますね。

（西田委員長）先ほど地域クラブとして野球、サッカー、陸上、バレーなどがあると聞いたのですが、その指導者の人に人材バンクに登録していただくというようなことはできないでしょうか。

（事務局）お願いすれば、ご自身の判断でしていただける方もあるかなと思います。

（西田委員長）部活動指導員のなり手が不足しています。私は水曜日に日高文化体育館で卓球の練習をしているのですが、隣のコートで小学校のバレーが練習をしています。中学校以上の練習をされています。その指導者の方に部活動指導員として来ていただいたらと思います。半分プロみたいな指導をされている。すごいなと思って見ていました。

（西田委員長）中学校では、生徒全員が何かの部活に所属しなければならないという学校とそうでない学校があると思うのですが、その辺の状況はどうなのでしょう。

（事務局）今は絶対に部活に入らなくてはいけない学校はないです。

（西田委員長）部活に入らない子どもは、地域の野球やサッカーに行っているのか、それとも何もしていないのか。割合としてはどうなのでしょう。

（８番 岩井委員）日高東中学校では部活に入っている子が大半で、９割以上は入っています。この数年では地域でやっている子も増えてきました。何もやっていない子は非常に少人数で、数名程度です。

別の話ですけれども、学校の職員としては、私の中学校におられた指導員の方みたいに、学校教育として子どもを成長させてほしいという願いがあります。だから、部活動の技術指導と生徒指導で子どもを育ててもらえるのだったら、安心してお願いしたいというふうに思います。去年から私はこの委員をやっているのですけれども、そんな人材を探していくには、この人材バンクの取組をとにかく進めていくしかないというふうに思います。これを進めて、指導員をしてもらった方が、なんかできそうだなと思ってもらえたら広がっていくだろうと。とにかくこの部活動を一緒にやってもらう人を増やさないと、多分できないなという思いだけで終わってしまう気がします。これからあと何年かかるかは分かりません。この国が言っている短期間にしろというのは無理なのだと思います。長い目で見てそういう人が増えていくかどうか、少しずつ増やしていくしか、この地域はないと思います。ですから、去年からやってように、土日入ってもらう、とにかく部活動に入ってもらう、今まで部活動というものを知らなかった人に指導に入ってもらうことにすごく意味があるのではないかなと思います。

難しい話だと思いますが、最終的に地域移行に変えていくためには 職業として成り立つかどうかだと思います。収入が安定するならばやろうという人が多分おられると思います。ですから、財源がもっと広がって、平日の２時間、休日の３時間だけではなくて、その前後の時間である打ち合わせの時間だとか準備の時間だとかも保証されていくと、今の部活動に近い指導ができる 方が増えていって、何年先になるか分からないですけれども、地域移行に繋がっていくのではないかなと思います。

この人材バンクですが、１回目にしてはすごく多いなと思いました。すごく多くの人に登録してもらっているな、すごくいい方向になったのではないかな、という感想を持ちました。これがたくさんさんのスポーツや文化芸術に人材が広がっていったら、また次に進んでいくのかなと思いますので、豊岡市の去年からの取組をどんどん広げていくのがいいのではないかなと思いました。

（西田委員長）ありがとうございました。今、お金の話がありました。職業として成り立つかどうかというような話もあったのですが、報酬の関係はいかがですか。

（事務局）時給 1600 円 をお願いしています。これは国が定めている上限額です。地域連携になると別予算になってくるので、違ってきます。地域グラフを立ち上げたり、運営し

たりする場合は、別の補助金が出ますが、これで生活が成り立つかというとなかなか難しいかもしれません。

（嶋教育長）現在、地域で活動されているスポーツクラブは月額どのくらい必要ですか？結構な金額ですよ。そうなってしまうと、受け皿があったとしても、個人負担で参加できないという子が出てくるという大きな問題になります。部活動がしたいのに経済的理由によって断念するということは絶対にあってはならないことなので、そこは国にお願いしないと仕方ないですよ、自治体の問題ではなくて。それは言っていこうと思うのですが、阪神間でもすでにそういう話が聞こえていて、「うち受けるよ。でもこれだけお金がいるから財政支援してくれるか。」みたいなことで、断念したという話を聞きました。

（西田委員長）今、人材バンクの登録者は6ページに書いてあるような人数です。私はスポーツ協会の関係ではちょっと少ないと思っています。1つの理由として、文面を見て少し責任が重いと思われてしまうことがあると思います。登録者が増えるようにするには、どうしたらいいのか、皆さんから何か意見がありましたらお願いします。

（6番 中井委員）去年の委員会でも、人材バンクの登録に躊躇している人の背中を押すのに講習会を開いてくださいとお話ししました。技術の指導だけでなく、生徒指導も関わってくると思います。色々なノウハウを教えていただいて、実際に指導に使うことができるという道筋が作られたら、いくらか不安が解消されるのではないかと思います。それプラス、少し名の知れた講師を呼んで来て、あの人の講習が受けられるのだったら、というような付加価値のある講習会を開いてはどうでしょうか。お金がかかる問題なので、実現できたらの話ですが。

（文化・スポーツ振興課 原田）西田委員長もご存じかもしれませんが、卓球の方で公認卓球スタートコーチ養成講習会というのを兵庫県の卓球協会さんと但馬卓球協会さんとで主催をされて、今年、日高文化体育館で8月に開かれます。生徒指導のことはないのですが、地域に指導の裾野を広げたいというような思いを強く持っておられて、学校の部活動で必要最低限の知識、技術を持ってもらう、学んでもらうという講習会があります。生徒指導はなくて、あくまでも技術面のスタートコーチ養成の講習を予定されている団体があります。

（西田委員長）日本スポーツ協会のコーチの資格で一番初心者のスタートコーチの資格ということですので、座学もあって通信教育で受けていく、ハラスメント関係の指導もあります。

（９番 安田委員）最終的な目的は、地域移行していわゆる地域クラブ活動を設立していくということですよね。そうであるならば、その目的に対して、部活動指導員を集めることが手段になっているのかどうか。そこが繋がっていかないと、地域移行と地域連携とで切れてしまうのではないのでしょうか。目的が地域クラブ活動への移行ならば、それに対しての手段は何なのか。それが部活動指導員なのか、という思いは持ちました。部活動指導員を集めることに必死になって、それが地域移行に繋がるのだろうかという思いがあります。ただ、指導員を集めるということが一番近いのだろうなとは思ったりはしましたがけれども、目的に対する手段がどうあるべきなのという考え方で繋げていかないと、切れてしまいそうな感じもあるので、目的はあくまでも地域クラブ設立というのが、あまり見えて来ない気がしました。

（３番 中田委員）今、人材バンクに登録される人が徐々に増えているのだから、その人がさらに同じ競技をする人を引っ張ってくるという、推薦というかをしてもらえたらいいのではないかと。１人が登録された時に、その人の人脈で、こういう人がいますよという人を推薦してもらうことも期待できるのかなと思います。

（西田委員長）スポーツ協会の関係では、去年の１２月に競技別団体の代表者に集まっていた会談がありました。その時に文化・スポーツ振興課の方から説明をいただいて、人材バンクに応募してほしいというようなことも言っていました。最初の説明ですので、さっき私が言い出したよう少し二の足を踏んでいる方が多いような現状かと思いますので、引き続きそのような機会に説明をいただいたらと思います。他にないようでしたら、協議事項につきましては以上で終わります。

８ 連絡依頼事項

今後の在り方検討委員会について

９ 閉会（１６時５０分）